

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」

平成 24～26 年度 分担研究総合報告書

障害児者を対象とした災害準備教材の開発と評価

研究分担者 前川あさ美 東京女子大学

研究代表者 北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

研究要旨

知的・発達障害（児）者自身が災害・避難・避難生活について理解するための教材（「自閉症の人のための防災・支援ハンドブック」マルチメディアデイジー版（日英）、「防災実践BOOK 地震に備えていのちをまもる」（所沢版発達障害編、全国版一般編）と教育プログラム（iPadアプリ「まもるリュック」（日英））を開発し、被災地における支援の中で評価を依頼し、幅広いニーズを明らかにした。また、障害児者本人が主体的に学習するための方策も求められることを明らかにした。その一つの方法として、iPadアプリケーション「まもるリュック」を開発し、無料公開した。

A. 目的

本研究では、障害児者が主体的に災害準備に取り組むための教材を開発し、その効果を評価することを目的とする。災害対策は自助を必要とするために、主体的な準備は不可欠だからである。

B. 方法

障害（児）者が、「助けられる者」としてではなく、主体的に避難訓練・避難行動に取り組むための確信と決意を持つための教材を開発した。内容、表現、体裁に配慮した。また、障害児者自身が読むために、印刷冊子の他に、パソコンで自動読み上げされるアクセシブルなPDFとマルチメディアデイジー版も作成した。研究代表者の所属機関のホームページからあるいは印刷物・CDとしてから発信して障害児の保護者

と支援者に評価を依頼した。

C. 結果と考察

表 1 に、本研究で製作した障害児者のための災害準備教材を示す。一部は、平成24年度および25年度総括報告書に掲載済みである。本冊子には、表では、ゴシック体で表記した未掲載あるいは掲載版を改定した教材を、（資料2）～（資料11）に掲載した。

マルチメディアデイジー版のインターネットからのダウンロードは対象者（支援者）の約半数が失敗したが、CD は再生することができた。いずれの教材についても2日に1件の割合でダウンロードされていることが履歴記録により明らかになった。

教材の内容と体裁は、概ね肯定的に評価されたが、「分量が多い」「表現が難しい」

「発達障害と書くと、障がい告知してない本人に見せられない」「もっと障害に特化した内容にしてほしい」「自分のことを書き込めるワークシートがほしい」等の意見も出て、多様なニーズがあることが明らか

になった。評価の回収率はよくなかったことから、家庭で母親や本人だけで準備するのは負担が多く、学校、課外活動、職場などでの災害準備教育の必要性が示唆された。

表1 障害児者のために製作した災害準備教材

著者	タイトル	印刷	PDF	マルチメディア デジタル版	その他	評価
(社)日本自閉症協会	自閉症の人のための防災・支援ハンドブック(本人・家族編)	既存 A5, pp.25			本人編	支援者
訳者:研究班	Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism (for you, and your family)	A5, pp.46			本人編	-
前川あさ美	<u>災害と発達障がい</u>	A5, pp16			-	-
前川あさ美	Disaster and ASD	A5, pp16		準備中	-	-
研究班	発達障害のある人の防災実践BOOK(所沢版)	A4, pp36		-	イラスト	母親
研究班	防災実践BOOK(全国版一般編)	A4, pp36		-	-	
北村弥生	災害の備え	A4両面		-	-	未
北村弥生	障がいのある人の支援:避難所で	A4両面		-	-	未
北村弥生	障がいのある人の支援:在宅避難の場合	A4両面		-	-	未
前川あさ美ら	iPad アプリ「まもるリュック」(英語版“My Ready Go Pack”)	無料ダウンロード	-	-	-	支援者、親
前川あさ美ら	iPad アプリ解説書	A5, pp12		-	-	-
前川あさ美ら	英語版 iPad アプリ解説書			-	-	-

ゴシック体で示した教材は本報告書に掲載した。

下線のついた教材は平成24-26年度 総括報告書に掲載済み。